



開会にあたりあいさつする中谷会長

中谷会長は開会あいさつで、農業会議が昭和29年8月の設立以来、70年にわたって活動の目標を「土地と人」対策に置いて活動してきたことを紹介。「ひとえに大阪府をはじめ各関係機関、団体のご支援、ご協力をいただいた賜物」と感謝を述べた。

また、集落座談会等できかにして地域の課題を乗り越えるかを協議している一方で、優良農地における大規模な農地転用が増加しており、市町村長に対する意見提出などを通じた農業理

解の醸成を呼び掛けた。さらに、70周年を契機とし、これまで以上に関係機関・団体との連携を密にして大阪農業の活性化と地域の実態に即した施策の実現に取り組み、決意を述べた。

大会には吉村大阪府知事よりお祝いのビデオメッセージが寄せられ、「発足以来、大阪農業の振興と農地行政の円滑な推進のために様々な活動を展開してこられた。70年という長きにわたる着実な歩みに心から敬意を表する」「更なる輝かしい歴史を刻まれていくことをお祈りする」とメールが送られた。

続いて、中谷大阪府議会議長、寺下大阪府農業協同組合連合会中央会・各連合会会長がそれぞれ祝辞を述べた。

大会の第1部では、農業会議設立70周年記念に係る農業委員会委員等表彰、永年在任者表彰、なにわ農業賞表彰が行われた(2面・7面に受賞者一覧)。

大阪府農業会議は10月24日、農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会を大阪市内・大阪国際交流センターで開き、農業委員会委員等約700人、一般消費者約100人が参加した。

# 力強い大阪農業の実現に向けて

## 農業会議設立70周年記念

### 大阪府農業委員会大会



発行所  
大阪府農業会議  
大阪市中央区農人橋2-1-33  
JAバンク大阪信連事務センター3階  
電話 直通 06(6941)2701~2  
http://www.agri-osaka.or.jp  
発行人 中谷 清

年金の  
お受け取りは  
JAで

JAバンク大阪(JA/信連)

JAバンク大阪へ 検索

- ### 主な記事
- なにわ農業賞  
地域をけん引する  
4経営体を表彰...2面
  - 他の年金制度との比較で  
農業者年金のメリットを解説  
農業者年金加入推進  
研修会...4面



北島議長

### 大会3議案を満場一致で採択

大会議長に北島泉北地区農委連合会会長(泉大津市農委会長)を選出。議事では集落座談会等を踏まえた大阪農業の活性化に向けた要請決議、食料・農業・農村基本計画策定等に関する要請決議、「地域の農地をを活かし、持続可能な大阪農業を創る運動」の強化に関する申し合わせ決議がそれぞれ満場一致で採択された。

第2部では写真とともに大阪農業と農業会議の70年を振り返った後、東京農業大学名誉教授の小泉武夫氏が「いのちはおくむ農と食―農業委員会への期待―」と題して講演した。(田村)

## 風速計

工場等の現場に掲示されているハイインリッヒの法則に、1件の重大事故の背景には、29件の軽い事故と300件のヒヤリハット(事故の一步手前の出来事)があると書かれている。この原則は数こそ違えども、日本の農業・農政にも当てはまる。◆夏場にスーパリーの店頭からコメが消えた状況を見た時、これが他の食料にも派生する未来を想像した。近年の世界情勢の激変を目の当たりにするにつけ、特に食料の確保は待たない。◆自給率確保の観点から生産基盤である貴重な農地の保全・確保は必然であり、減少は見逃ごせない◆農業振興施策の推進と農地への規制強化は車の両輪である。特に、農振農用地及び第1種農地などの優良農地については、開発圧力に屈することなく、今後の規制緩和には、今一度立ち止まり、歯止めをかける必要があるのではないかと考える。(増山)

# 大会議案

農業委員会大会の第1部において第1号議案は農業会議の谷会長が、2号議案は谷口副会長が、3号議案は森本副会長が提案理由を説明。全ての議案が満場一致で採択された。

各議案の記以下の項目は次のとおり。

## (第1号議案)

集落座談会等を踏まえた大阪農業の活性化に向けた要請決議

### (大阪府知事宛)

- 1 地域計画の実現に向けたハード・ソフト両面の施策の拡充

## なにわ農業賞

### 地域農業をけん引する4経営体を表彰

農業会議は10月24日に開いた農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会で、なにわ農業賞の表彰を行った。今回表彰を受けたのは、木下喜代治氏(岸和田市・シユンギク、コマツナ、ミズナ、ホウレンソウ等)、坂上和隆氏(貝塚市・みつば、米)、石垣忠司氏(泉佐野市・水なす、キャベツ、米等)、山下

(1) 地域の実情を踏まえた生産基盤整備への支援

(2) 地域計画の実現に向けた経営改善支援

2 市街化区域の農業振興に向けた施策の拡充

3 多様な農業者に対する支援策の拡充

4 「経営継承応援制度(仮称)」の創設

## (第2号議案)

食料・農業・農村基本計画策定等に関する要請決議(農林水産大臣宛)

- 1 地域計画の実現に向けた推

進体制の強化

2 農地・環境保全等のための所得保障政策の実施

3 国補助金の支援対象の拡充

4 新規就農者など多様な農業者に対する支援策の拡充

5 農地保全と継承に関する新たな制度創設の検討

## (第3号議案)

「地域の農地を活かし、持続可能な大阪農業を創る運動」の強化に関する申し合わせ決議

- 1 地域計画の策定・実現に向けた取り組みに積極的に参画しよう。その際、農地のマツ

チングを推進するなど、担い手の確保・育成に取り組もう。

2 市町村長への意見提出により、優良農地の確保など集落座談会での意向を踏まえた施策を実現しよう。

3 府民に対して、都市農業・農地の果たす役割とその実情について情報発信する取り組みを進めよう。

4 農地法の適正執行に向け、公平・公明・公正な農業委員会業務の執行に努めよう。

5 「全国農業新聞」「全国農業図書」を積極的に活用しよう。



坂上和隆氏(貝塚市)



木下喜代治氏(岸和田市)



山下隆紀氏(柏原市)



石垣忠司氏(泉佐野市)

## 月間農政ファイル

9・21～10・20

9・27 農水省は、農産物の物価変動を表す農業物価指数の8月の値が、野菜や米等の上昇を受けて前年同月比で8・2%上昇したと公表した。生産資材の価格指数は飼料・肥料のほか、農機具の上昇で同0・1%上昇。

10・11 農水省と近畿農政局は、9月15日時点の2024年産米の予想収穫量と作付面積を公表した。近畿地方の作況指数は100で平年並み。大阪府の作況指数は103で「やや良」。

290 鈔(前年比産140 鈔減)と見込まれる。主食用作付面積の10%当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は2万1900トで前年産から400ト減と予測される。

10・18 農水省は、2024年産米の9月の相対取引価格が全銘柄平均で60%当たり2万2700円と公表した。前年同月比では48%の上昇。出荷業者と卸売業者等の間の取引価格で60%当たり2万2000円を超えたのは平成15年産以来。

# 担い手に続き集落座談会を開催

八尾市

八尾市農とみどりの振興課と農業委員会(齊藤暁会長)は9月21日から28日にかけて、5地区で集落座談会を開いた。

座談会では地域計画の策定目的、昨年12月の担い手座談会と今年6月に行った地権者アンケートの結果を説明。その後、

班に分かれ①農業の現状と課題と②その解決策について意見交換した。

主な意見としては①担い手が不足②農道が狭く1筆の農地も小さい③用水を井戸水に頼るが井戸が老朽化している④丘陵地では転作作物として花木や植木

を栽培したが大木となり、農地に復元するには高額な費用が必要⑤農業では儲からない⑥現在の60〜70歳代の農家は自家消費でも農業を続けるが、次の世代は農業を続けるか不明、などの意見があった。

その対策として①農道やほ場を整備し、他所からの新規就農者を受け入れる。しかし、それには一定のルールが必要。また、全員がほ場整備に賛成するわけ

ではないため、地域のまとめ役が必要②井戸を整備する③スマート農業を導入して人手不足に対応する④農業生産法人の誘致や集落営農組織の育成⑤丘陵地の植木は里山として整備し、里山公園として管理する。などが示された。

今後、市が意見交換の内容をとりまとめ、12月頃に再度、座談会を開催し、内容の確認を行う予定である。(藤岡)



課題と対策を意見交換した(八尾市)

# 機械更新費用等が課題

阪南市

阪南市河川農水課と農業委員会(相良修一郎会長)は9月18日に箱作西地区の地域計画の策定に係る集落座談会を開催した。市が座談会の目的や進め方を話した後、地域計画の概要及び趣旨を説明。併せて前年度末に実施した農地利用の意向に関する調査の結果を報告した。

また、府泉州農と緑の総合事務所から座談会で話し合われた内容が地域計画としてどのように反映されるのか他市の地域計画案を示して補足説明をした。その後、地域の現状や課題等について話し合いを行った。

座談会に参加した農家からは、①米を作っても、トラクター・コンバイン等の機械経費が多大で採算が合わないため後継者に農業を継がせられない。②コンバインなどの機械が故障したら農業を辞める農家が増えている。③労働に見合う対価が得られない。④パイプラインは整備されているが農用水として利用している一部の池が貯水できない状況。改修したいが改修費用の地元負担の課題がある。⑤農地を借りたい人がいれば地域として受け入れられる。⑥先祖から受け継いだ土地を放棄したくない。⑦この地区は住宅が少ないので農業はしやすい。などの意見が出された。

解決策として農機の共同購入・共同利用の案も出されたが

# 農業経営収入保険

締め切り12月末まで

農業者自らが生産した農産物の販売収入全体を補償する公的な保険制度で、青色申告を行う農業者(個人・法人)であれば加入できます。

自然災害や市場価格の下落、けが・病気など、農業者の経営努力では避けられない様々なリスクに対応しています。

「積立方式1割+保険方式8割の9割補償」が基本ですが、初年度の掛金等支出を抑えるた

最後に、市は座談会で出された意見を踏まえて地域計画案としてとりまとめることを参加者に説明した。

その後、参加した農家から本

日の参加者だけの意見を地区の意見とすることについて懸念が示されたため、市は2回目の座談会の開催を検討することとした。(平田)

【問い合わせ先】大阪府農業共同組合/NOSA-1大阪

【本所】

大阪市中央区農人橋2-1-33

06(6941)8736

【北部支所】

茨木市西駅前町10-20

072(631)7737

【南部支所】

和泉市北田中町2-15

0725(92)3313

【ホームページ】

<http://nosai-osaka.com>

令和7年のお申込み期間は12月末までです。



# 他の年金制度との比較で 農業者年金のメリットを解説

## 農業者年金加入推進研修会

農業会議、JA大阪中央会、独立行政法人農業者年金基金は9月25日、大阪市内・シテイプラザ大阪で農業者年金加入推進研修会を開催。農業委員会の事務局員、加入推進部長、JAの農業者年金担当者など28人が出席した。

研修会ではまず制度説明動画「農業者年金 加入のすすめ」と加入推進実践DVD「みんな農業者年金を広めよう」を視聴し、基本的な内容を確認。

続いて農業者年金基金の細川嘉一企画調整室長が、農業者年金制度が誕生した背景や趣旨に触れながら、加入時のメリットや加入推進の進め方をDVDの内容を踏まえて解説した。

その後には農業会議から、府内の加入推進状況及び令和6年度の加入推進活動について説明。大阪府農業委員会組織では「農業者年金加入推進特別対策に関する申し合わせ決議」に基づいてJA・中央会と連携して若



「農業者年金と他の年金制度の内容を知ること、自分に適した上乘せ年金を見つけられる」と藤本氏

手・女性農業者を重点に加入推進に取り組み、全ての市町村が最低年間1人以上、重点農業委員会では年間2人以上の新規加入者の確保を目標に掲げており、令和3～5年の3年間の新規加入者は27人であった。また、近畿府県農業会議が合同でユニチューブやティーバーなどでの動画広告の実施を11月から予定している旨の周知を行った。

最後に特定社会保険労務士の藤本紀美香氏が「他の年金制度と農業者年金」をテーマに講演した。

藤本氏はまず日本の年金制度について説明。第1号被保険者の農業者には厚生年金に該当する2階部分が無いため、老後の生活資金確保のためには、上乘せ年金の選択が重要であるとし

## 若手農業者に農業者年金PR JA大阪中河内が加入講習開く

JA大阪中河内(畑中正史組合長)は9月19日、同営農総合センターで、農業者年金加入講習会を開催。管内の若手農業者・新規就農者10人を対象に、農業者年金制度説明と加入推進を行った。農業会議からは田村総務課副主幹と林農政課主事が出席し、説明を行った。

研修会ではまず、田村総務課副主幹が農業者年金の必要性について説明した。国民年金の1号被保

険者として40年間保険料を納付した場合、夫婦2人で月額約14万円の年金額となるのに対し、高齢農家夫婦の現金支出は令和

た。次に農業者年金と国民年金基金、イデコ、小規模企業共済を比較。国民年金基金とイデコは任意脱退が不可能。小規模企業共済は任意解約可能だが加入期間20年未満は元本割れになることに対し、農業者年金は任意脱退がいつでも可能。天候や災害の影響で収入が減少した際、一

4年ベースの推計で月額約24万円と、約10万円の不足と提示。不足分を埋める手段のひとつとして、公的年金制度で終身年金である農業者年金が適している」と解説を行った。

次に林農政課主事が、農業者年金制度の加入の基本3要件、加入の種類、税制優遇措置などについて説明。特に保険料の国庫補助が受けられる政策支援加入について重点的に解説を行い、国庫補助に必要な要件や補助額の周知を行った。

研修会の最後には田村総務課副主幹が、加入した際のシミュレーション結果をもとに平均的な年金受給総額を提示。また農業者年金はイデコやニーサなどと比較すると、税制優遇が加入者本人だけでなく配偶者な

時脱退や掛金額の変更ができるため、農業者に適していると説明した。

農業の担い手のために考案され、少子高齢化時代に強い積立方式・確定拠出型の農業者年金は、個人の備えや国民年金とバランス良く組み合わせることが出来る上乘せ年金であると、そのメリットを強調した。(林)

どの掛金額も対象になる点や、元本割れ時の措置として危険準備金からマイナス分の補填が行われるという点で、国民年金の上乗せ年金として適していると呼び掛けた。(林)



講習会では積極的な質疑応答が行われ、戸別訪問に繋がった

# 日本農薬総合研究所 経営者会議会員らが 視察



農薬の研究開発の工程について  
説明を受ける参加者

大阪府農業経営者会議(中筋秀樹会長)は10月3日、地区研究会を開催し、河内長野市・日本農薬株式会社総合研究所を視察。当日は、会員農家等12人が参加した。

同研究所の大岡祥晃研究グループリーダーが研究所の沿革、概要について説明。農薬は、①毒性、②摂取後の代謝、③害を及ぼさない残留の程度、④生物や環境への影響、といった4つの視点に基づき、安全性の研究がなされる。多くの実験・確認・解析を経て実際に製品化される農薬は16万種類に一つと極めて少ないこと等が述べられた。

また、同社大阪支店の村井政彦専任課長からは、農薬登録制度や再評価制度について報告。平成30年の農薬取締法の改正により、今年度から農薬の再評価が開始されたことを受けて、審査から登録に至るまでの具体的なスケジュール等について説明した。その後、経営者会議事務局からは、大阪府のマイナー作物への農薬登録拡大推進体制と流れについて説明した。

参加農家からは、再登録やシユンギク等マイナー作物の農薬登録に係る要望を中心に、成分の残効や、希釈の程度、結球などの条件による農薬の取り扱いなどについて質問や意見があった。

(沼田)

# 大阪産農産物を展示

## こども食堂等へ寄贈

### 大阪府農業経営者会議



中筋会長(左から3番目)から  
吉村市長(中央)に農産物を手渡した

大阪府農業経営者会議(中筋秀樹会長)は10月24日、農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会に際して、会場で会員が生産した農産物を展示。大会に出席した消費者に大阪農業をPRした。当日はシユンギク等の軟弱野菜、ブドウ、泉州水なす、胡蝶蘭など19会員が生



展示に足を止める来場者たち

産した農産物を展示。参加者からは、「大阪府内に多様な農産物の産地があることを知れて良かった」「エビイモの実物を初めて見た」など様々な反響があった。

大会終了後は富田林こども未来室に寄贈。中筋秀樹会長から吉村善美富田林市長に手渡した。市長は、「府内各地から様々な農産物を提供いただきありがたい」と感謝の意を述べ、中筋会長からの各農産物の説明を熱心に聴き入った。農産物は同市内のこども食堂や市内の生活困窮者向け支援等として提供された。

### 消費者の農業理解を促進 農業・農政の説明パネル展示



農産物とともに啓発パネルを展示した

当日は、農業委員会大会における農産物展示とともに、消費者に向けた農業理解の促進を図るポスターやパネルも紹介。農業委員会組織の沿革やおおさか農政アクションプラン、今般改正された食料・

(沼田)

# 大阪国税局と意見交換

## 納税猶予関連事務の適正実施

近畿府県農業会議は10月8日、JAバンク大阪信連事務センターで大阪国税局との相続税等納税猶予関連情報交換会を開いた。

令和6年6月末時点の大阪府内の管理件数と納税猶予額は、相続税が4925件・約1652億円、贈与税が18件・約9億円であった。  
農業委員会業務については国税局より、①証明等の発行につ

いては、必ず現地確認を行った上、適正に証明事務を行うこと、②権利移転等を把握した場合は農地等の移動事実の通知書を速やかに税務署長宛に提出すること、③発行した適格者証明書の内容の控えについては適切に保管し台帳補正に活用すること等を説明あわせて、特例農地等の利用状況照会等について税務署から協力要請があった場合は対応願いたい旨の依頼があった。

各府県農業会議からは、当該案件の確認方法や対応状況等についてそれぞれ報告があり、意見交換が行われた。

### 全市町村で現地確認を実施 納税猶予アンケート調査

農業会議では、10月8日の大阪国税局との相続税等納税猶予関連情報交換会に先立ち、9月に「相続税等納税猶予関連事務等に関するアンケート調査」を府内市町村農業委員会等を対象に実施した。  
調査は43市町村からすべて回答があり、概要は次のとおりと

なっている。  
税務署から利用状況照会があった案件の確認方法(複数回答)については、最も多いのが「個別の現地確認」(40件)、次いで「農地台帳・納税猶予台帳農地整理台帳で確認」(19件)、「農地パトロールの中で該当農地も確認」(9件)の順。全ての市町村で何らかの現地確認を行っていることが分かった。  
納税猶予適用農地の状況把握については、「把握できている」と「ほぼ把握できている」を合わせると約9割となっている。  
23年度の税務署提供の納税猶

予対象者(10月時点の住所、氏名、適用年)の保存状況については、21市町村が「保存している」と回答。残りの市町村は、保存していない、交付がない(有無の確認が取れない場合含む)と回答したが、現物ではないが別の媒体に反映しているなど、いずれも何らかの方法で適用農地の把握を図っている。  
(沼田)

# 天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員

森田 彰朗

## 第八回

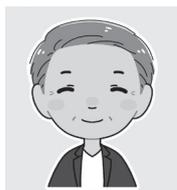
### 「この冬はラニーニャ」

#### ラニーニャは女の子のニャ

ラニーニャという言葉をご存じですか。スペイン語で女の子という意味です。ちなみに女の子のことは、エルニーニョとい、特別な男の子「神の子イエス」のことです。それが日本の

気象とどんな関係があるのか、今年の冬はどうか、解説します。  
ペルーの海水温が  
気象を決める

そもそもエルニーニョとは南米の太平洋側、ペルー沖の海水温が高くなる現象のことをいいます。クリスマス頃によく起こることから、キリストと結びついたといわれています。ラニー



ニャはこの逆で、ペルー沖の海水温が低くなることです。

### 日本の気象への影響は

はるかに離れた地域の現象ですが、同じ太平洋での出来事なので、日本にも影響を及ぼします。エルニーニョの時は、フィリピンやインドネシア付近の海水温が下がり、太平洋高気圧が弱まり、冷夏・暖冬傾向になるといわれます。ラニーニャの時はこの逆で、猛暑・厳冬となる可能性がります。

### 今年の冬は寒くなる？

では、今現在(本原稿作成は10月上旬)、ペルー沖の海水温はどうなっているでしょうか。別図に示すように、気象庁の予報ではラニーニャに近づいています。過去の傾向から、この冬(12月〜2月)は低温で、特に日本海側では豪雪となる可能性がります。ただ、この夏の猛暑の影響が長引くと、寒さも弱いかも知れません。11月の気温が低ければ、ラニーニャのせいで寒い冬になりそうなので、注意しておきましょう。

エルニーニョ/ラニーニャ現象の発生確率(予測期間:2024年7月~2025年1月)

年	月	平均期間	エルニーニョ現象	平常	ラニーニャ現象
2024年	7月	2024年5月~2024年9月	100		
	8月	2024年6月~2024年10月	80	20	
	9月	2024年7月~2024年11月	50	50	
	10月	2024年8月~2024年12月	40	60	
	11月	2024年9月~2025年1月	30	70	
	12月	2024年10月~2025年2月	30	70	
2025年	1月	2024年11月~2025年3月	40	60	

「エルニーニョ・ラニーニャの予報(気象庁HPより)」

### 第55回理事会

大阪府農業会議は10月24日、大阪市内・大阪国際交流センターで第55回理事会を開催。第1号議案では、JA連合会の役員改選に伴う常設審議委員の補充選任について承認した。また、同日開催の農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会の運営について協議した。

(中島)

### 第103回常設審議委員会

農業会議は10月16日、第103回常設審議委員会を大阪市内・プリムローズ大阪で開いた。第1号議案の農地法第4条及び第5条の規定に基づく意見聴取に回答する件(和泉市、岬町、貝塚市、泉佐野市、堺市、河南町、富田林市、八尾市、枚方市、寝屋川市農業委員会会長)16件(3万4471平方メートル)を許可

やむを得ないと認め、回答することを議決した。	件数	面積(平方メートル)
<b>【第1号議案】</b>		
第4条	2	75
第5条	14	3万4396
合計	16	3万4471
(農地区別件数は、3種農地8件、2種農地7件、1種農地1件)		

新たに129件を認定  
府農業経営計画認定審査会  
大阪府農業経営計画認定審査会(会長・坂本義信大阪府みどり公社調査役)は9月11日、JAバンク大阪信連事務センターで令和6年度第1回認定審査会を開き、知事から諮問のあった129件の大阪版認定農業者の農業経営計画を適当であると認め、答申した。

24市町村から申請のあった129件のうち、年間販売額50万円以上をめざす「地域貢献型農業者」は118件、「エコ認証」が8件、「地域営農組織」が3件となった。

これらを年代別にみると、「70〜79歳」が51件と最も多く、次いで「60〜69歳」(23件)、「50〜59歳」(21件)の順となった。

(北川)

### 農業会議設立70周年記念

#### 表彰状・感謝状受賞者

10月24日開催の農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会で、大阪農業の振興や農業委員会の発展等に貢献した者に対して、大阪府知事、全国農業会議所会長、農業会議会長から表彰状及び感謝状が贈られた。受賞者は次のとおり。(敬称略)

### 新団体会員代表者紹介 摂津市長に嶋野氏



9月22日、摂津市長選挙の投票が行われ、新たに嶋野浩一朗氏が10月12日付けで摂津市長に就任した。嶋野氏は就任日と同日付けで府農業会議の団体会員代表者に就任した。

会費、大阪農業の振興や農業委員会の発展等に貢献した者に対して、大阪府知事、全国農業会議所会長、農業会議会長から表彰状及び感謝状が贈られた。受賞者は次のとおり。(敬称略)	大阪府知事感謝状及び全国農業会議所会長表彰状(16人、重複受賞)
高槻市	中村 玲子
豊能町	上西 武司
池田市	橋本 敏美
忠岡町	前川幸一郎
高石市	前川 和廣
泉佐野市	古川 博康
阪南市	勝間富士男
富田林市	相良修一郎
藤井寺市	草竹 義和
八尾市	中谷 清
	池上 晃
	齊藤 暁

守口市	西口 誠一
大東市	橋本 順昭
学識経験	青木 孝仁
学識経験	霜野 要規
大阪府農業会議感謝状(4人)	
歴代役員(副会長)	石原 三和
	橋長 俊彦
歴代事務局長	勝間富士男
	鈴木 成
永年在任者表彰(42人)	
◇農業委員会委員の部(39人)	
〔40年〕	田中 嘉彦
大阪狭山市	
〔30年〕	正木 利幸
忠岡町	前川 和廣
〔10年〕	高山 一郎
島本町	

吹田市	田中 幸造
	角田 和子
奥 祐次	
田口 末次	
大西 清一	
谷山 正昭	
森 善隆	
神寄 勇人	
山形 隆文	
神代 繁近	
前田 正仁	
寺田 定義	
山内千代治	
小門 豊	
メ野 仁美	
仁部 勲	
南 昇一	
上野 寛治	
森 千代一	
植木喜久子	
川端 英夫	
泉野野市	
泉南市	
阪南市	
太子町	
茨木市	
池田市	
箕面市	
忠岡町	
泉大津市	
摂津市	
池田市	
箕面市	
忠岡町	
泉大津市	
吹田市	
角田 和子	
奥 祐次	
田口 末次	
大西 清一	
谷山 正昭	
森 善隆	
神寄 勇人	
山形 隆文	
神代 繁近	
前田 正仁	
寺田 定義	
山内千代治	
小門 豊	
メ野 仁美	
仁部 勲	
南 昇一	
上野 寛治	
森 千代一	
植木喜久子	
川端 英夫	

千早赤阪村	植野 茂男
大阪狭山市	大向 義章
八尾市	辻 仁史
	池田 公信
	井上 秀一
	向井 正雄
	山中 章吉
柏原市	巳波 生治
枚方市	折田 正信
大東市	大西 寛治
	小林 良一
四條畷市	久門 廣美
交野市	星野 義博
	友田 正直
◇農業会議会員の部(2人)	
〔10年〕	
八尾市	齊藤 暁
学識経験	青木 孝仁
◇農業委員会職員(1人)	
〔10年〕	
高槻市	大野 浩史

大阪農大願書受付中

WEB授業もスタート

100年以上の歴史を有する大阪農大は、「就農したい！」重視の学校です。令和7年度からは、Web授業を順次導入し、

「農業関係の技術者になりたい！」「大阪の農家で働きたい！」を実現するための実践の通学で知識と技術を習得する1年制「短期実践課程」を新設

し、就農に求められる知識と技能の習得をめざします。短期実践課程選考試験の願書受付期間は11月1日(金)～12月12日(木)。週5日通学の2年制総合課程

一般人学試験の願書受付期間は12月3日(火)～13日(金)。大阪農大HP: <https://www.knsc-osaka.jp/noudai/>(大阪農大提供)

今春、農業土木技術職として奉職した大阪府庁を退職いたしました。38年間の職務を全う出来たのは皆様方に、ご支援いただいたおかげと大変感謝しております。現在は大阪府土地改良事業団体連合会で、土地改良区や市町村等の会員皆様の農業農村整備事業の推進、農業用水水利施設などの保全や管理のお手伝いをさせていただいています。引き続きどうぞよろしく願います。

モノづくりがしたい！

しかし、課長補佐になると、直接現場に係わる機会が減り、次第にモノづくりを渴望するようになっていました。そのような折、NHK教育テレビ番組

ここでオリジナルの情景を作る楽しさにはまり、今に至っています。心底には、10年前に廃館となった「交通科学博物館」のジオラマ展示へのあこがれもあつたと思います。

パーツづくりにも手を出し...

これまでは市販のキットを多用してきましたが、オリジナルパーツづくりにも着手、石垣は発泡スチロール板表面を熱し粒を際立たせ着色、崖は観葉植物用のバークチップを使用、農業用鉄骨ハウスは銀色塗装したプラスチック棒と透明板で作成してみました。これにより、オリジナルパーツを発想する楽しみも加わってきました。

成を楽しんでいます。



都市近郊農村の情景—複線レイアウト(4ユニット連結)

技術者の知恵と知識を

活かした情景づくり



大阪府土地改良事業団体連合会

常務理事 丹後 晋哉

機会をいただいたので、貴重な紙面を拝借し、私の趣味の鉄道模型のジオラマづくりを紹介させていただきます。

「趣味悠々」の鉄道模型のレイアウト作成入門の講座が目に残り、早速、テキストを購入し、A3サイズのNゲージ用(鉄道模型の規格)ミニレイアウトの解説に沿ってレイアウトづくりをチャレンジします。

大きなものが作りたくありません。我が家でのスペースの確保問題から、30センチ×45センチのユニットを10個連結した作品に取り掛かりますが、1ユニットを作成したところで、ユニットの多さに情景アイデアが続かず、断念、休止。そのうちに作成意欲が復活、4作目として、60センチ×45センチユニットの4連結の都市近郊農村

随想

を縮減、新しい技術の導入など様々な工夫をしながら、工事を進め、モノ

建物などの造形は市販キットを用いて、古い街道の町並みと農家を情景とした第一作が完成、

2作目は60センチ×45センチより大きなサイズで田舎の風景にチャレンジし、次にはゆつたりと鉄道模型を走らせる畳1枚程度の

プロ橋である「ブルージオ橋」を模した情景に取り組んでいます。ブルー橋は画用紙を利用して何度も試作を繰り返し完成、次に織り込む景色を思案しながら作

◇筆者の紹介(たんご しんや)

昭和61年 神戸大学農学部農業工学科卒業、大阪府庁入庁。「農空間」の立ち上げに関わる。南河内農と緑の総合事務所長、農政室長を歴任、令和6年3月末退職し、4月より現職。